

第1回上田市総合教育会議(平成27年5月27日) 議事録

1 開会

2 母袋市長あいさつ

お疲れ様でございます。

第1回目ということで、上田市の総合教育会議の開催の場とさせていただきます。

まず、小林教育長はじめ教育委員の皆様方には、平素から未来を担う子どもたちの教育の充実、発展のために御尽力をいただきまして感謝申し上げます。

ご案内のとおり国の教育再生とか、あるいは制度改革こういったものの中で法律の一部改正が行われ、今年4月1日から施行ということに相成って御覧のとおりでございます。

上田市といたしましても、これら速やかに対応をいたしながら、これから進めていきたいと思っております。法に基づく市としての総合教育会議を本日設置させていただいたところでございます。上田市におきましては、教育委員の皆様方とは定期的な対話もございましたが、頻度としてはそう多くはなかったという現状がございます。せっかくこのような総合教育会議を設けるわけありますので、これまで以上の連携ですね、しっかりしたタッグを組みながら、一層の教育の充実に取り組んでまいりたい、このように考えております。

私自身、個人的な見解に持つことがいろいろありますが、市政全体と教育というものからすると、やはり個人の人を育てるということは決して家庭だけの話でなく、地域とか社会で子どもを育成するということを意識しているという立場でございます。一方で学校施設の整備、またよりよい教育環境づくりには、より意を配していかなければいけない、このように思います。

ご案内のとおりでもございますが、平成19年1月に、上田市の教育行政のあり方を考える有識者会議を設置して以来、上田市教育支援プランも策定いたしまして、以降、プランも見直しながら4つの重点目標に基づく様々な支援策を推進してきているところでもございまして、多くの成果は現れてきたものと受け止めています。今後、昨年10月にオープンいたしましたサントミュージーゼを中心として、更に育成という理念を強めながら進めていく必要があると思っております。義務教育に加えまして子どもたちが優れた文化や芸術、スポーツも含めそういったものに触れて自由な発想とか感性、また二つの想像、イメージーションとクリエイション、そういう想像の力、芽を育めれば、このような思いも持っております。

一方で私自身も教育ということをもう少し勉強しなきゃいかんという思いもございまして、全国の首長有志によって設置された教育再生首長会議という場がございますが、上田市といたしましても今年度から加入をいたしました。このような場で得られた情報等について折に触れ、この総合教育会議の場でも皆様にお知らせし、あるいは教育行政に生かせることがあればという思いであります。

また、上田市といたしましても地方創生の取り組みをきちんと進めていかなければいけない、そういう意味で本格化してまいりますけど、まちづくりするあるいはいろんな事を成すにしても基本はやはり人でございます、この人づくり、人材育成であろうと、これにはやはり地方創生ということの中でも、何かの形を成していきたいと思っております。まち・ひと・しごと創生のこの、ひと創生においては教育に担うことは当然大きなものがあるわけでございますが、全国

一律ということより、私は地方での特色を生かしながら、あるいは上田市だから持っている特徴を組立として中に入れ込みながら、未来の教育づくりをしていければという思いも持っています。そういう中で地域全体がその努力を惜しまない、そういったところに活力も生まれて地方創生を表現する力になると、実現する力になるとこのように考えております。

中心は子どもたちの目線に立つということだと思いますし、従来と変わるべきものは変えようと、そういうことも必要であります。守るべきものは守る、もちろんでございます。あらたな発想を教育委員会と私たち市長部局、意見交換をしながらまたチャレンジをしていくことも必要だろうと、こんな思いも持っております。

そのためにもこの上田市の教育を取りまく現状や課題を把握して、またこれからの方向性というものをしっかりと共有をいたさなければいけないわけでありまして。

力を合わせて前進していくことが求められています。その中でこの総合教育会議、是非とも有意義な場になりますこと、私どもも心して取り組んでまいることをお誓いいたして、冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 小林教育長あいさつ

教育の方向がかなり大きな変化を見せているそういった時代であります。様々な課題がございます。今、市長のほうからもそういった課題に積極的にというようなお話も頂いたわけがありますけど、私といたしましても、できない理由を探すということではなく、積極的に先を見据えて一歩でも先んずることが創造性を発揮して教育の可能性を広げる、こういうことだという思いで教育行政に当たらせて頂きたい、こんなふうに考えているところであります。

現在、上田市教育委員会としては大きな観点として二つのものを進めております。

一つは学力の向上。この学力の向上といたしましては、端的に申し上げれば、お父さんお母さん方にとって学校という場がどういう場であらねばならないのか考えたときに、やっぱり安全安心な場である、そして一人ひとりに応じて教育をしてくれる、そういう場所であるとともに、しっかりした力を身につけてくれる場所でなければいけない、こんなふうに考えているところでございます。その意味では学校の信頼を得るということが非常に大切である、こんなふうに考えているところであります。そうゆう

もう一つは、信州型の学校を中心とした地域コミュニティスクール、コミュニティスクールでございますけど、こんなものも考えております。これも地域の皆さんが地域の宝として学校を捉えてくれれば、こんなふうに思っているところです。言ってみればこれは地域の皆様からの信頼、それから今、市長がおっしゃたように、やはり子どもたちが信頼してくれなければいけない、こんなことは一番基本に伝えなければいけない、こういう具合に考えているところでございます。

上田市に私どもありまして、上田というところは教育的資源も大変多く持っているところだと思っております。高等教育機関もございまして、数多くの高校もございまして。そういったものが本当に上田市民の宝となるような形での教育というものを実現してまいりたい、最初にあたりまして私の方から挨拶とさせていただきます。

4 会議事項

(1) 上田市総合教育会議の設置について(位置付け・役割)

事務局から資料1説明
委員から特段意見なし。了承

(2) 上田市教育大綱の策定について(政策企画課長説明)

事務局から資料2説明

山崎教育委員

大綱については、今策定している、第2次上田市総合計画をベースにするという話でしたね。この総合計画のほうは分野ごとに今お話し合いをしていると思いますが、進捗状況というか、具体的にどのへんになったら出てくるのかというのが分かれば教えてもらいたいです。

事務局(翠川政策企画課長)

総合計画でございますが、総合計画の組立といたしましては10年間のまちづくりビジョンというのがございまして、その下にまちづくり計画ということで、前期の5年間ということで計画としております。現在部会に分かれて、その編ごと部門ごとに具体的なまちづくり計画についてだいぶ出来上がってきておりまして、この6月の初旬に中間答申といったような形まで進んできておりますので、だいたい具体的な中身は決まっておるというような状況でございます。最終的な仕上げは、9月の市議会のほうにお諮りをして最終策定という形のスケジュールを考えておるところでございます。

山崎教育委員

それに伴ってですけど、今各部会で案を練ってもらっているという、大綱のベースにするものを今練ってもらっている皆さんには、「これをベースに大綱を作りますよ」ということを、ご報告というか通知はしているものでしょうか。

事務局(翠川政策企画課長)

現在のところ、そこまで具体的なお話はさせていただいてはおりませんが、教育全般について大きな方向性というものを計画づくりの中で位置付けておりますので、それをベースに大綱をつくっていくことに、そう整合性に差が生まれるとはあまり考えておりません。

城下教育委員

第二次上田市総合計画をベースに大綱の原案を作っていただくということでしたけど、その原案をこの総合会議の場にご提案いただくタイミングはいつぐらいですか。

事務局(翠川政策企画課長)

次回の総合教育会議のほうでご披露をさせていただきたいなと思います。

寺島教育委員

上田市はもともと5年計画、10年の総合計画があって、それから教育支援プランという大筋での方針はすでにあるわけですね。そこへ今回、教育大綱ということで、ある意味ではそこへ割り込んでくる形で屋上屋を重ねるような感じが否めないわけですね。

したがって作ることに反対ということではなくて、整合性を持たせてシンプルなものを作ってもらわないと、我々こういうところに携わった者については、説明できるんで分かりやすいですけど、仮に市民の皆さんが見たとき、総合計画があって大綱があって支援プランがあって何があってと、何がどうなっているのかわかりにくい、その位置付けとか関連性、そのところを明確にして、出来るだけわかりやすいものにしてほしいなど、大綱ですから基本的な方針ですので細かいものは盛り込まないですけど、どうしても3つすでにあるものの中に割り込むというイメージがするものですから、その辺をしっかりとってほしいと思います。

事務局(翠川政策企画課長)

おっしゃるとおりだと思います。基本的な方針、目指す方向といったところを大綱のほうにあげていきたいというような形で、分かりやすい系統だった計画づくり、そういった位置付けにさせていきたいと思います。

5 上田市教育に寄せる思い(意見交換)

母袋市長

教育について素人という語弊はあると思いますが、専門的に教育とは何かについてなかなか持ち得ないものではございますけど、私自身、教育という分野は非常に幅広い、特に世の中がこれだけ変わってきている中で、先程から言っている、どう子どもを育てる、その育てるといのは学力と共に人ということにおいてスポットをあてて育成していけるかという、こういうことが一番求められているわけで、それぞれ学力と育成について分けただけでもいろいろな視点があると基本的にまず思っています。そういう中で、教育委員会なり市長部局でこのような新たな場を設ける、この意義はいろいろあると思いますが、やはり我々考えていることをきちっと住民に届く、届けられるかどうかという事が大切だと思います。それについては、かなり工夫を凝らしながら、要するに教育の見える化というのかな、よくなんとか見える化という言葉が使われますけど、そういうことに意識を割きながら工夫を凝らして進めて行く、それには様々な媒体的なものを使ったり、住民に届ける工夫をしていくことかと、ひとつ思っております。それからもう一つ育成ということにおいて、先程も言いましたサントミュージーゼということを中心として既存の施設、あるいは学校現場、それも利用しての育成ですから、今も既に始まっております。これを進めて行く継続性が必要で、じゃあこれをやった中でどんな成果が得られるかという、そんなすぐでてくるわけでは決してございません。しかし継続をしていく中で必ずや、子どもたちの元気な姿が見えてくるのではないかという期待感、私は思っています。

そんな中で、今日たまたま地元、信毎さんの投稿欄に 君という子どもの投稿が出ていまして、さすが中学生でここまで目標立ててやるかと、非常に関心を持ちました。

また、何ヶ月か前かな、同じ上田市内の中学生が投稿していたものも掲載されて読みましたが、発想力というか表現力がすごいなと正直感じました。したがってそれは全体から見るとほんの一部の人たちかもしれないけど、そういうやっぱり表現力豊かな子どもを目指せるような教育環境を作ることが大事で、その結果、さすが上田市の子どもたちだと、どこへ行

ってもそう評価される様な子どもにしていきたいというのが私の強い思いでございます。

そんな中で、当然子どもたちですから無邪気で将来の夢も持っている、そういう夢も抱きながら幸せ感を感じられる、最近、健幸都市という幸せという字を使って健幸都市づくりということをお私、主張してますけど、子どもにとっての幸せ感ってなんだろうということだと思いますね。そういったものを大人の立場で、あるいは我々の立場で考えながら環境整備に努めていく、こういうことが大事だと思っています。大局的な話としていくつか挙げましたが、せっかくだから具体的に現在において私が考えている具体的なことを2、3お話ししたいと思います。

一つ目は、さっき挨拶で上田市だからの特徴を活かして何が出来るかということをお話しました。これは福祉とか医療の分野にも関わってきますが、上田市立産婦人科病院や民間の産科もある中で、まさに幼児期から義務、ここについてはかねがねやってきたことです。幼児期といっても保育や教育というか、分かれちゃっているんだけど私はやっぱり人を育てる中での幼児期は大切でありますから、幼保小中の連携は評価をしていきたい、これだけではないままでおりなんです。

ここからが考えていることで、高等教育と更に結びつけて一貫通貫の育てが考えられないか、つまり、高校になると県教委マター、どうしてもこういう状況になってきてしまっている、そして大学になればなったでまた違うと、こういうことですから、市内にはいくつかの高校があり、いくつかの大学があるわけでございますので、ここを市長部局がからむ以上、やはり視野に入れながら、特に中高と連携、あるいは大学への連携、そういったものに挑戦していく、それが教育システムとして成り得るかどうかは別にして、モデルケース等考えながら取り組んでいくことが子どもが成人に向けての我々行政のやる役割、大きくあるんじゃないかこのように思っております。

それから最近全国で課題になっている中で、土曜日の教育活動ですね。英語教育も含めた教育活動、これについては賛否もちろん当然あるわけです。私自身は、すぐたとえば土曜日の授業を復活させるなんていう思いはございませんが、しかし最近貧困という言葉が使われて、いろんな状況におかれている子どもたち、そういう中で意欲を持って教えてあげられるというか、塾は塾であります、ああいうものとは違う教育活動が有り得るんじゃないかと思っています。

そういう中で、英語活動というのも低年齢化、私はやっぱり日本人が英語べただという、能力伸びないという理由はまさに小学校時代の英語教育にある、このように思っています。したがって低年齢化についても賛否両論あることも承知していますけど、やはりインターナショナルとか国際化で視野を広げるには語学は必須なわけでございます、そういう中で、地域の関わり、土曜日の教育活動、また小学校における英語活動のあり方、こういったものも大いに議論していきたいなと、このように思っております。

それ以外は教育長のお話がありました学力向上について私も同感であるし、また信州型のコミュニティスクール、こういったものがなかなか進まない、その原因ももちろんあるんだろうと思いますが、これはやっぱり進めるべき話。住民参加、地域参加、こういうものを得られる学校こそ、未来がある学校ではないか、この様に思っております。

最後にいくつか言って申し訳ないですが、教育委員会が非常に肥大化しているという事は前から言われております。二部制にするのか、今までどおりにするのか、また市長部局へ移管するのか、これもここ数年議論されてきておりますが結論は出ておりません。したがって組織体制うんぬんについてもこの際に議論をしていく時にきているんじゃないか、こんな思いも持っております。その他もございまして、今日のところは以上にして沢山申し上げました。

小林教育長

今、英語教育の話をしていただきましたけど、これについてはこれから非常に重要な課題というふうに考えています。日本語の能力をつけるということも同時にやっていかなければいけないですし、そういうものが基本になってくると思いますし、そういうものを踏まえてどういう英語がいいのか、いきなり昔流の文法をやっていくとすると、これはもう英語嫌いを早くからつくってしまう事になりますので、そういうことにつきましては、今日の信濃毎日新聞にございましたけど、小諸市なんかでの研究なんかもあるようですし、またそういう専門の方も沢山おられるようなので、どんなふうに英語というのが子どもたちに位置付けていくか。それからこれは私の考えというか県の英語の関係の方からお伺いしたんですけど、何をしゃべるのか、どんな内容をしゃべるのかということで、例えばちょうど「真田丸」がありますので、地域についての誇りであるとか、地域で自分が生きて生き様というようなものをしっかり持って英語教育を、しゃべる英語というものをやっていけたらいいなと考えています。ただ、いずれにしろ、なかなか人の問題からして大変な課題ではありますが、非常に重要な課題というふうに意識しているところであります。

城下教育委員

記念すべき第1回目の総合会議ということでございますので、今まで私、教育委員6年目、任期6年目に入っております、その中で色々考えたこと、それ以前は専門で母親だけやっておりましたので、そのへんのところとか色々含めて教育に対して漠然としたことになってしまいかもしれませんが、ちょっとお話をさせて下さい。

私は委員になる前は、先程も言いましたけど母親専門で4人の子どもたちのお尻を叩いて子どものお尻だけを見て過ごしていた様なことをしていたんですけど、まずそこで私が一番思っていたのは、私は母親でなくて祖母に育てられました、明治生まれの祖母に育てられました。その明治生まれの祖母が、私が小さいときからよく「子どもは社会の預かりものだからな」と何度も何度も言っていたんですね。子どもの頃は、それがどういう意味なのか全く分からなかったんですけども、やはり自分の子どもを産んだ時に、私の祖母が言っていた事は本当にそういうことだな、子どもって社会の預かりもの、親のものでもないし、誰のものでもない、社会から巣立ってるから、この子たちを立派にして社会に戻さなきゃいけないという、そういう意識で一生懸命育てていたような気がします。

それで時が流れて、今私は会社のほうで、主人が会社経営をしておりますので、その会社のほうで経営を担っているんですけど、そこでまた従業員さんを見たときに、やはりこういう大人になった時に、会社とか社会でやはり宝となれる人材を育てないとダメだなとつくづく思いました。以前、校長会の時にもお話しあげましたけど、人材の材という言葉には、4つ意味がございまして、単なる材料の材だったり、いるだけで罪になってしまう材料の方とかいますし、本当に財宝の財という字をあてて、会社の中で社会の中で宝となれる人間を育てていかなければいけないということ、従業員を毎日目の前にして、この従業員さんどういような育ち方をしてきたんだろうか、お父さんお母さんにどんな教育を受けて育ったんだろうか、そういう事が垣間見える時があります。そういったところで宝となれる子どもを育てるという事が本当に重要なことではないかなと日々思っております。

そして教育委員になってからは、市民目線で教育行政に対応するという事を一番心がけてまいりました。私が委員に呼ばれたときも、母親の代表として城下さん見てくださいねと言われましたので、常にそれを意識し、尚且つ非常勤だからこそ得られる視野の広さといい

ますか、見識が高いとは、私は全然思っていないので、ただ非常勤だからこそ見えること、見えないことがございますけど、そういったものを生かして大所高所から物を言う立場ではない、本当に一から十まで細かく色々意見を言ったり質問したりして、決めていくというか活動していくべきことだと思っていたので、今後の総合会議も併せて今後への思いですけど、やはり総合会議が始まったことで市長部局等、教育委員会とか、先程市長さんも言いましたけど、タッグを組んで同じ方向を見て力強く進めるようになったとっておりますので、やはり教育委員会だけですと予算権限がないということから、やはり出来る範囲が狭まってしまうとか、限られてしまいますので、この会を生かして、これからはもっともって力強く進んでいけたらと思います。

そして私も先程市長さんがおっしゃった事を特に感じていますが、市民にもっと上田市の教育が、もっと市民の方に近い存在であるべきとは常々感じております。先程もおっしゃいましたが、私が専業主婦の頃は上田市の教育がどうか、教育行政がどうかなんていうのは全く考えずに、というより知ろうともせず、またこういった言い方は失礼かと思っておりますけど、目にも入ってこなかったような記憶がありますので、やはり市民の方に近いところで教育というのが繰り広げられなくてはいけないかなと思っています。

もう一つ思っているのは、今後はそういった意味で私たち委員が上田市、市民の皆さんと一緒に教育に関する意識を高められるような、住民の方と一緒に教育に対する意識を喚起できるようなファシリテーターのような役になることも必要じゃないかなと思って、今全く具体的に何をすればというのはありませんけれど、まずは教育委員会の中ばかりを見て、それなりに私なりに奮闘してきたんですけど、これからは市民の方と一緒に巻き込んでそういった教育に対する意識を盛り立てていかなければいけないかなと感じております。いろいろと申し上げましたけど、第1回ということですので、今までの思いも含めて今後の思いを話させて頂きました。ありがとうございます。

寺島教育委員

今日、初めての総合教育会議ということで私も素人なんですけど、教育ということを考えて非常に難しいなと感じています。というのは、視点によっていくらでもいろんな見方ができますし、それからこうすればいいという決定的なものがない、あれば楽なんでしょうけど、その上結果がでるまで大変時間がかかるということから、どうしても保守的になってしまうというか、なりがちだ。そうは言いながら、その時の社会情勢や経済情勢やいろいろなものをうつして変化をしていかなければいけないという中で、上田市の教育はどうしていけばいいかなと、子どもたちの育成とあるんですけど、正直言ってその環境整備の中で、一つそこへ行く前に本当はなんとかしなきゃいけない問題があるんですけど、要は大人の世界ですね。子どものいろいろ教育と言っても大人の世界の鏡なんですね、これを映して反映されて子どもの世界と言うんで、現状の世の中、全体を見ると大人はまともかと言うと、それは我々の世代に大変責任があるんですけども、上手くいってないと言いますか、そこで子どもだけの教育の理想論を言ってもなかなか始まらない。かと言って大人の世界を変えることは大変難しい、これもまた時間のかかることだろうと。例えば一例を挙げますと、戦後70年と言われてはいますが、多分バブル期頃から「今だけ、金だけ、自分だけ」というような風潮が、日本の中でも昔に比べて強まっている。今だけ良ければいいのではないかと、将来の事はどうするんですか、あるいは金だけだと、そうでなくて心もあるのではないですかと、自分だけじゃなくて他人を思いやるそういうベーシックなところがある程度できてこないかと教育の現場で学力だけと言っても国際競争

で負けてしまうのかなという思いを巡らせたりします。そうするとこれは学校教育、家庭教育から社会教育から全体の問題であると、また、こんなことを上田で論じて、日本全体の問題であるということ、少し頭に入れておかなければいけないかなという中で、上田の子どもたちに期待する期待ということで3つ抽象的ですけど、一つは夢を持ってもらいたい。

目標に向かってチャレンジしてほしい。それを教育の我々がどう支えるか、どちらかと言うと昨今の世の中は、やや現実的になった内向きの世界、やっぱり大きな夢をどう持って持たせていくかということ。今のようなネット社会を拝見しますと、どうしてもネット社会の中で同質化していくんですね。多様化といっても実際は同質化、それから教育社会の中で危険なのは映像から入ってくることで、例えば本を読むよりもアニメの方が、市長も言いましたけど想像力とかイマジネーションとかどうしても欠けてくる。そういう意味では同質化がいけないわけではないのだけど、その中でやっぱり自分の考えを持った人間を育てていければと思います。

もうひとつはグローバル化している時代ですので、日本の中で上田だけと言えないので、やっぱりこの地域から世界に通用する優秀な人材を送り出したいなという思いもある。そうなるというゆる信州型の教育の中では、特に公教育中心でボトムアップの平均的な子どもを作るということになってしまう、そうでなくて優秀な子たちをどう伸ばしてやるかということも大事だと思う。せっかく能力があるのに、それ以上伸びる環境をつくってやるということも必要だと思う。それから一人ひとり見ると、皆さん優れた点いい点がいっぱいある、そういう点を個々にどう伸ばしてやるか、自信を持たせる、自分はこういう事に優れているんだという自信を持たせるような教育ですね。

もう一つは優秀な人間だけ育てて、みんな外へ行ってしまっただけでは困るという事になりかねないので、やはり上田の魅力を子どものうちから教えていくことも大切で、優秀な人間は外へ行くけど、やっぱり上田は良いんだということで、上田に残る人材をどう育てていくのかということが大事な点。抽象的ですけどもそういうところで具体的に私たちがどういうお手伝いをしていけばいいのか、あるいは教育という現場だけでなく、地域住民を交えながらどう育てていけばいいかなというような思いがあります。

山崎教育委員

教育委員会とか今日始まった総合教育会議については、私も城下委員と同じように、この地域の子どもたちがとても大事だということを第一に考えていきたいなというふうに思っていますし、これからもそこは、ぶれてはいけないかなと思います。

教育委員の中でもいろんな話を協議会でして、やはり皆さんの思いは同じであります。その中で私としてはどういう視点で今日お話ししようかなと考えてきました。

私は障がい者福祉に関わる仕事をしています。障がいがあるお家にいらっしゃる方たちに支援に入るという仕事をしています。ですので小さい子はオギャーと産まれた赤ちゃんから高齢者まで、障がい者手帳を持ってる方に支援をさせて頂くんですけども、そういう方たちに入ると、そういう方たちは非常に世界が狭いです。

私たちが考えられないくらい世界が狭くて 365 日自分の部屋のベッドの上だけで過ごす、そういう方にも入ったりします。やはり考え方も狭いですし、人と関わる時間もとても少ないですので、こういう言い方が合っているかわかりませんが、社会の片隅のほんの一箇所だけで生きてる、そういう方たちに支援に入っております。

そういう方たちは今、視野が狭いと言いましたけども、それを狭い視野から覗いた時に、結構、社会が見えたりするんですね。

おもしろい事に狭いま見えてるかと思うと、狭い穴から覗いた世界が見えたりします。社会の中で私たちはこんな風に見られているんだということが時々感じたりもするんです、障がいのある方たちがね。この間も、おもしろいというか私がこういった方たちに関わらなければこんな経験ができなかったなという事が一つありました。先日の会合で母袋市長にもお話をしたんですけど、全盲の方がいらっしゃるって、その方がこの間サントミュージゼで行ったレオナルド展に行きたいと言って、私がガイドにつきました。絵画を見るわけですけど、私は全然知識が無いので説明はできません。「女性が写ってますよ」とか「こんな感じです」という説明しかできないと思いましたので、サントミュージゼの美術館に入って、あそこは音声ガイドが無いのでどうしようかなと思って係の方に申しあげたら、学芸員の方がいらっしゃるってその方がついてくださいました。私とその彼女、二人だけに学芸員の方がついて説明をしてくださいました。レオナルドさんの事をとてもよく勉強されていて、絵画についてもとても見識が深く、とても細かいところまで、そして私にはなくて視覚障がいの方に非常に分かりやすく「これはこういう色ですよ」「こういう形をしていますよ」こういう風に説明をしてくださいました。

とても私なんかでは説明できないくらい丁寧な説明をしてくださって、それを聞いた私もレオナルド展がとても好きになるくらい丁寧な説明をしていただきました。そんな風にとっても狭い世界しかない方たちが社会に出たときに、こんな風に社会って広がっているんだ、こんなことがあるんだということが、障がい者に関わらなければ分からないという場面が、今のは一例ですけどあります。ですので一方から見ることだけではなくて、そうではない反対側とか後ろ側から見たときにどうなのかなというのを、大事にしていきたいなと思っています。

先程の市長もおっしゃられたように、私たちが教育について考えていることを市民の皆さんに伝えていく、とても大事なことだと思いますが、これからつくる大綱や教育支援プランなどありますが、その基にこうしてるというのではなくて、個人個人の方たちの色々な教育活動を、支援や大綱によって支えている、下支えをしている、図で言うと皆さんが子どもたちの上において、その下に支援プランがあって大綱があってその教育があるというように上からではなくて、下から皆さんの活動を支えているんだという考えを私は大切にしていきたいなと思っています。あまりにも話がぶれて焦点が定まりませんでしたけど、一方的な見方ではなくて反対側の方からもきちんと見てそれを大事にしたいなと思っています。

北沢教育委員

3月末に今の教育現場にいた立場でお話をさせていただきます。

中学校、あるいは耳の不自由な子どもたちが学ぶ学校にいたり、県の総合教育センターあるいは教育事務所、県庁教育委員会というようなところでも仕事をさせて頂いてきました。それを踏まえてですけど、最初の市長さんからお話のあった点について触れておきますけど、さすが上田市の子どもたちだという風に言われたいというような、私にとって上田市の中学校が最後でしたので、そういう子どもたちを育てられたかということ、はなはだ自信は無いのですけど、それに向かって力は尽くした、きたつもりではいます。

もう一つ気になったところ、子どもたちはどうゆうところで幸福感を持つのかということについても、私は各上田市の小学校なり中学校なり高校でも結構ですけど、特に幼稚園、保育園、小学校、中学校でこの学校でやっぱり学んで良かった、この学校を卒業して良かった、今思わなくても将来的にこの地の学校で良かったと、もっと言えばこの地に生まれて良かったと、上田市に生まれて良かったとそういう風に思える様な、それがあつて一つの幸福感に

つながるんじゃないかなと思いました。

また、いくつかの4つ課題、市長さんがお話しされた中の最初の幼保小中、あるいは高校大学等々の連携について、そして土曜授業、土曜の教育活動とありますけど、土曜の教育活動、それから小学校からの英語の授業、そういうものについては機会があればまた私の考えをお話していきたいなと思いますけど、学校現場にいた手前、よくどういう子どもを育てるんだというのは話題になります。どういう子どもを育てるんだというのは、それは私信州教育というか長野県も上田市もそんなに違いは無いという風に、日本もそんなには違いは無いと思っています。それはどういうことかという、やはり知徳体のバランスがとれた調和した社会的に自立した人間の育成、ここにある面では尽きるんじゃないかと思います。もっとそれを短い言葉で言えば、それは生きる力を身につけたそういう姿だと思います。知徳体その中の知の中に、やはり先程から出ている学力というものがあるんじゃないかと思います。徳の部分には先程から出ている、思いやりとか共生の心とか、あるいは共に生きていくというものが含まれますし、知徳体の体は文字通り健康な体とか精神とかそういうものは、私は全人的なものに繋がっていくんじゃないかなと思っています。当然、体は健康で心も心身ともに健康って事を前提にした上で、特に知と徳のバランスが私は大事ななと。平均的にどの人間もどの子どもも、知徳体が1/3ずつバランスが取れたとそういう意味ではなくて、私はその答えにバランスが取れていけばいいのではないかという風に思っております。ちょっとイメージが伝わりにくいんですけど、中でも先程から出ている学力に特化してお話しますと、学力と言う捉えがですね未だに、確かに文部科学省の学習指導要領の中にそれに触れた文言がございますけど、例えばよく言われる「見える学力」と「見えない学力」、「測れる学力」と「測れない学力」或いは、「量的な学力」と「質的な学力」そういうふうに分けられるんです。

例えば全国学力学習状況調査、あるいはNRT、CRTというものは数字的なものが出てきますので、それを見える学力だと唱えている人もいますし、いやそれは違うんだと言っている人もいます。学力の事に話をすると永遠に話は混乱してきますので止めますけど、ある面で市長さんからお話もありましたけど、学力ってものを基礎的な知識技能、基礎的基本的な知識技能、あるいは思考、判断、表現力、思考力・判断力・表現力あるいは意欲といった三つの分野で統合したものが学力というように承知すれば、私は上田市のそういう面での学力は全国学力学習状況調査でいえば、もっと改善してくる部分もあるのではないかと、特に小学校から中学校に上がっていった場合における課題というのは数字で出ていますので、そのところはやはり大事に考えて方策をうっていく必要があるかなとは思っています。そういう事はお話しましたが、じゃあとどのつまり、どういうことが一番大事なかと小学校や中学校で、人生80年の中で、義務教育の中でどういうところで例えば幼保小中のところで、つけていかなければいけないかと考えて、一言言えば何だとなった時は、私は常々言ってきたのは、学力の中でもある面では問題解決的な能力が、自分の目の前の問題をどうやって解決していくか、それを1人で解決していくのか周りの人間と協働して協調してコミュニケーションをとって解決していくのか。特に困難な問題に対してどうやって解決していくのか、私はそれが一番大事だというように個人的には考えています。

古い言葉で言えば若干意味が違いますが克己心、そういうふうにして指導してきたつもりではいます。そのことがこれからの子どもたちにとって一番大事ではないかと、そういう力をつけていけば、たとえ上田市から中央へ出て行っても、又は世界へ飛び出して行っても、それから地域や上田市に残って上田市や地域を支えていく為にもそのことが大事なのではないかなというふうに思っております。特に困難な状況に直面したときに、逃げるんじゃなくて何

とか立ち向かっていく、何とか今までの知識とか技能とか持てた智恵を出して解決していく。どんなにある面で学習成績が高くてもそこでぼしょりといっていくような人間ではなくて、やはり骨太のたくましい人間、問題解決力をつけた、例えば目の前の算数の問題を解くことも問題解決力かも知れませんが、例えば就職試験を乗り切ることも、例えばこの家を直すときにどう直していくのか、ありとあらゆるところでそういう事は直面していくんじゃないかなと、特に困難な状況のときにどういうふうに克服して乗り越えていくか、そのことを私は大事にしていきたいし、これまでも大事にしてきたかなと思います。

城下教育委員

北沢委員のお話を聞いてつくづく思ったんですけど、学力向上って私教育委員をやっていって今も考えていたんですけど、学力って何なんだろうってすごい頭の中でグルグル一周しました。子どもたち全員、通知表の5段階で5をつけることが学力向上なのか、それもそれで大事です。勉強が楽しくなれば学校に行く足取りも軽くなるので大切、でも義務教育が終わってそこから長い人生の中で、やはり私も会社の中でいろんな人を見てると、特にうちなんかは中小零細ですので、学歴というか高学歴な方っていらっしやらないというか、学歴は必要ない。そうじゃなくて本当に先程北沢委員さんおっしゃいましたけど、何か困難にぶちあたった時に、何とか周りの人と一緒に相談をしてこの困難な状況を打開していき、前向きに物事に取り組める人が一番、先ほどもおっしゃいましたけど社会、会社の宝ですね。横並びで成績とっていいという時代は終わったので、先が見えない、答えが無いこの世の中に、どう自分たち、自分一人ではなく、みなさん仲間を巻き込んで課題に打ち勝って答えを見つけるかっていう、その作業が出来る人というのはとても成長していきますし、会社の宝となります。学力、今いろんな意味が含まれていると思いますので、やはり教育委員会としてもこういったいろんな意味が含まれていることを、しっかり見極めながらいろんなものに施策を行っていかなければならないのかなということ、今ひしひし感じました。

英語教育に関してですけど、私は時々このお話させていただくことがあるんですけど、うちの長男が英語にとっても興味を持ちまして、実際海外で少し勉強をして今日本に帰ってきてるんですけど、その時息子に「どう思う？英語が小学校で教科になってずいぶん小さい頃から英語勉強するようになるんだけどどう思う？」って聞いたら、息子が言いましたのは「お母さん、小さい時から英語をやるのも大事だけど、日本語でディスカッションする力が無い子たちが、どうやって英語でディスカッションするの。海外に出るとみんなそれぞれ自分が生まれた地域や国のことを、うんとよく知っていて自分というものをしっかり持っていて、ほんとにそこで言語を戦わせるんだよ。ほんとに日本語でディスカッションできない人が海外に出て、ただツールとしての英語を知っていても何も話せないからね」って事を言ったんですね。「あーそうなんだな」って私は海外で生活したことがないので本当につくづく思いました。多分息子は、「英語英語って言うけどイギリス英語だけじゃないからね、世の中広いよ、世界は広いんだからね、たとえ日本にいたって、よその国の人と交流するってことだって英語教育のひとつだと思うよ」ということを言っていました。英語力をつけるのに苦労した息子が言っているの、なかなか当たってもいるんだなと、ふと思っております。

山崎教育委員

先程市長も寺島さんも、子どもたちに夢が必要というふうにおっしゃいました。

私もとても夢って大事だと思っています。子どもって将来どんなふう成長していくか、自

分の未来を切り開いていくかなんて本当に小さいときは分からなくて、大きく羽ばたいていけるそれぞれの能力を持っていると思います。その為には自分が持つ夢が大事、大きなキーワードになるかなと思いますけど、子どもたちにじゃあ夢って大事だよ、夢持とうねって言ってもやはり夢って簡単に持てるものではないと思います。では夢ってどうやって持てるかって自分のことも考えたり、いろいろ皆さんのお話を聞いて思うのは、やはり相手の存在をそのまま認める、あなたはあなたでいいですよ、あなたがとっても良い事をしたから、お勉強ができたから、優しいからあなたが良いですよではなくて、あなたがそこに居るだけでいいということ子どもたちに伝えていくというか、私たちから発信する、それがなかなか難しいところはありますけど存在だけで認めてもらえるという、それがとても夢を持つという第一歩になって、その後はその子のことをお子さんだけでなく大人もそうですけど、相手のことを褒めるという事はとても大事だと思います。

褒めるというのとおだてるといのは違いますので、きちんとその子の存在を認めた上で、その子のことを褒める、その褒めてもらったことから自分にはこんな得意なことがあるんだ、次はこういうことをしてみようというように、だんだん未来への想いが広がって行ってそれが将来こうなりたい、こうしたいっていう夢という形に繋がっていくのかなというふうに思っていますので、やはりそのままの存在を認めて、そして良かったよということがあれば気持ちよく褒める伝えるということが大切なんじゃないかなというふうに思っています。これからもそのようにしていきたいなと思っています。

小林教育長

今皆さんのお話を聞いていて思ったことが二つありますのでよろしいでしょうか。

一つは校長先生と面接をしながら気づいたことなんですけど、自分の住んでいるところがすごい農村地帯なんです。稲が沢山採れるんだけど川がかなり下にある。子どもたちがどうしてこんな川が下にある土地で稲がこんなに採れるんだろうと思ったら、かなり昔に堰を高いところに作って水を引いたんだということを地域の人たちから教わった。それはすごい感動だと思う。そしてその感動を基に棚田で命と触れ合う、これもまた大きな感動というこんなふうに感じさせていただいて、土曜授業でありますとか地域学習というもので、地域の持っている力というか、子どもたちに与える力というものは本当に大きいなと感じさせていただいているのと、もう一つは小学校と高校の関係ですけど、高校のマーチングバンドの場所がなく小学校の会場を借りたい、ところが小学校の子どもたちはその姿をすごく感動して見た、あんな風に将来自分もなれたらなと思った、そしてその学校の校長先生がそういう子どもたちの気持ちを汲み取ってこれもまた感動ですけど、毎年高校の演奏会を合同で小学校でやってくださっている、こんなような話も校長先生から聞きました。教育の持っている教育委員の皆さんが言ってくれた感動みたいなものが現場に本当にあるなと感じさせていただいたもので、様々な宿題をいただきましたけど、そういう宿題をそういう中で生かせるんじゃないか、私なりに考えているところであります。

母袋市長

今日は皆さんから色々出していただき、やはり教育という人を育てる学校のあり方を含めて、いろんな視点があるということですね。

今たかだか 30 分ぐらいの意見交換の中でもこれだけのものが出てきているわけですから、今後これを事務局で整理しながら会議の運営仕方についてどういうふうに進めてい

くか課題いろいろある中での優先図というものも必要かもわからない。あるものは急ぐということも必要ですから、そのへんを事務局で整理して提案なりしてもらいたい。もう一つ最後にこの間、倉島教育総務課長から報告あって皆さんもお聞きだと思っただけど、子どもたちがどういうことを持って変わる機会になるのか、目覚めるのかという事例の中で、去年中国へ行った中の君、男の子が中国へ行ってあまりにも中国の同年代の人たちの英語力に驚いた、なんでそんなにぺらぺらしゃべるんだ、多分そう感じたんだよね。帰ってきて自分もどうにかしなきゃいかんだろうと考えたんでしょね。俄然英語に関心を持って勉強し始めたという、それが親に伝わって親から「うちの子が変わってうれしい」とかそういう報告があったんです。

親は大喜び、子どもは子どもで感じたことをやってる、そして妹にも影響が及び始めた。そういう話を聞いて、そういう事業そのもの、中国へ行ったり来たりも決して無駄ではないし、一人でもそういうことを感じてもらえる何かを、これはやはり税金使ってお金かけて補助してるわけですから、やはり何か成果を得てもらいたいと思うんですね。その一例として今紹介させていただきました。

いずれにしろ個々が持っている才能、タレントですね、やはりこういったものをどう伸ばしていけるのか、それをサポートするのは先生であり、我々社会でありということですから、アドバイスするサポートするにしても現場の先生の資質的というか能力というか、そういったものを磨かないときちんと子どもに対応でき得ない、こういう面もありますので現場も頑張ってもらいたい、こんな思いを持ちました。

いずれにしろ今日は大変有意義な会議の第1回目ということになったと思いますので、これからもどうぞよろしくお願ひしたいと思います。